

サステナブル（持続可能）な研究会のつくり方
～学会設立以前から13年続く、対人援助学会研究会のセブンルール～

【発表者】

千葉晃央（京都光華女子大学）
中島弘美（CONカウンセリンオフィス中島）
早樫一男（きょうと大和の家）
渡辺修宏（国際医療福祉大学）
大谷多加志（京都光華女子大学）

○内容

対人援助学会のコンテンツとしての研究会の魅力を検証し、誰もが研究会のような「コミュニティづくりが始められる！」と感じてもらえるよう参加者の皆さんと一緒に整理します。

研究会などを主催者として始めることは大変ですが、継続し続けるのも簡単ではありません。そんななかで対人援助学会の研究会は2009年の対人援助学会設立以前から存在し、現在も続いています。第1回は2005年に「対人援助学会設立準備会」として開催。現在通算50回を超えました。学会員の学びやネットワーク構築はもちろん、学会員以外とのつながり、学会ならではの活動を行うことで広く社会に寄与することを目的にしています。

参加してくださった方からは、「あの機会があったから…、今はこうなりました」「あそこでいつも出会っていて、今はここで一緒に仕事をしています」など研究会の存在意義を感じられるような複数の証言があります。そんなエピソードの共有とその研究会をどう運営してきたのかを7つのルールに絞って深めたいと思います。過去の歴代研究会も振り返りながら、その運営を継続するコツ、そしてこれからの演題のリクエスト投票など、研究会の持つ可能性を探ります。過去にゲストとして登壇してくださった方も当日は参加します！生の証言も含めて、私たちのセブンルール（7原則）を見つけたいと思います。